

神奈川スケートリンクの再整備について

1 再整備の必要性

神奈川スケートリンクの建物は、現在地への移築後64年以上が経過しているため、施設の老朽化が著しく進んでいます。

そのため、市民の皆様が安全かつ快適に利用できる環境を確保するため、再整備が必要です。

なお、再整備にあたっては、国際規格を満たすスケートリンクを建設する予定です。

【参考】神奈川スケートリンクの経緯

- ・昭和24(1949)年3月
横浜貿易博覧会の演芸館の建物として、土浦飛行場の格納庫を解体・移築して使用
- 昭和24(1949)年11月
演芸館の建物を体育館に改造し、第4回国民体育大会の会場として使用
- 昭和25(1950)年6月
国体終了後、体育館等の寄附を受け、(財)神奈川体育館が設立
- ・昭和26(1951)年2月
体育館を改修し、体育館とスケートリンクとして運営を開始
- ・昭和34(1959)年9月
既存施設を改修し、全面スケートリンクとして運営を開始

2 現敷地での建替え

神奈川スケートリンクについて、現敷地で建替える方向で調整を進めています。

3 再整備主体

神奈川スケートリンクの現運営団体である(財)神奈川体育館と(公財)横浜市体育協会が統合後、(公財)横浜市体育協会が、スケートリンクの再整備及び運営を行う予定です。

両団体は、統合することにより、本市におけるウインタースポーツを含めたスポーツ振興をより一体的かつ効果的に推進することを目的として、各々の3月の理事会で統合する方向性を確認しています。

4 再整備に対する本市の支援の考え方

市有地の貸与の継続など、支援内容については、平成25年度予算「大規模スポーツ施設等調査費」の中で調査検討します。

【参考】神奈川スケートリンクの概要

所在地	横浜市神奈川区広台太田町1-1
開設	昭和26(1951)年
運営団体	(財)神奈川体育館(理事長 山崎善也 職員 13名)
年間利用者数	約16万人(一般滑走者、教室利用者) 他に、貸切利用は約5~6万人
運営時間	ほぼ24時間(10時~18時:一般利用、18時~翌10時:貸切利用)
敷地面積	4,243㎡(うち、市有地3,693㎡、財団所有地550㎡)
施設面積	3,887㎡